

中原遺跡

—第4次発掘調査報告—

平成26（2014）年12月
久留米市教育委員会

序

久留米市は、筑紫平野の中心に位置し、古くから水路と陸路の要衝としての位置を占めてきました。このため市内には、先人達の残した多くの文化遺産が存在します。

今回の調査では、奈良時代の集落の一部を検出し、当該期の集落の広がりを確認することができました。この成果を活かして、今後の久留米市の市民文化や教育の発展に貢献できることを願っております。

また、発掘調査に際して多大なご協力をいただきました地権者ならびに周辺住民の皆様にご心より御礼申し上げます。

平成 26 年 12 月 26 日
久 留 米 市 教 育 委 員 会
教 育 長 堤 正 則

例 言

1. 本書は、共同住宅建設に先立ち、平成 25 年度に■■■■氏の委託を受けて実施した、中原遺跡第 4 次調査の発掘調査報告書である。
2. 調査は久留米市教育委員会が調査主体となり、市民文化部文化財保護課の江頭俊介が担当した。本書に掲載した遺構実測図の作成は、江頭と小西富美子、藤木幸子、檜原初美が行い、浄書は「遺構くん cubic」で作成した。
3. 遺構写真は、マミヤ RB67 を用いて江頭が撮影した。遺物写真撮影はニコンデジタルカメラを用いて、久留米市埋蔵文化財センターにおいて、江頭が行った。なお、本文中の遺物番号と写真図版の遺物番号は同一である。
4. 遺構実測図は国土調査法第Ⅱ座標系（世界測地系）を基に作成し、図面の方位は全て座標北を示す。
5. 本書に使用した遺構の略記号は、SD—溝、SK—土坑、SP—ピットを示す。
6. 出土遺物・記録類は、全て久留米市埋蔵文化財センターにおいて収蔵・保管されている。
7. 本調査の略記号はNKB—004、調査番号は201323である。
8. 遺物観察表の凡例は以下のとおりである。法量の単位はcmである。[] は復元値、() は現在値を表す。登録番号は当課が定める出土遺物登録番号である。
9. 本書の執筆・編集は江頭が行った。

本 文 目 次

I. はじめに	1
II. 位置と環境	2
III. 調査の記録	3
IV. 総括	8

I. はじめに

1. 調査に至る経過

本調査は、共同住宅建設に伴う事前の発掘調査である。平成 26 年 1 月 14 日、[] 氏より、久留米市梅満町 596-12 外 8 筆における「埋蔵文化財包蔵の有無」の照会が提出された。当該地一帯は、周知の遺跡である中原遺跡にあたり、今回の調査地においても、縄文時代から室町時代の遺構が残存している可能性があると考えられたため、同年 1 月 16 日、発掘調査が必要である旨回答した。また同年 1 月 29 日委託者より、発掘調査の依頼が提出され、それを受けて久留米市長檜原利則と [] 氏は、同年 2 月 4 日埋蔵文化財発掘調査にかかる委託契約と協定書を締結し、久留米市教育委員会は、同年 2 月 13 日より発掘調査を開始した。同年 3 月 13 日に発掘調査を終了し、その後、平成 26 年 12 月 26 日まで整理作業と報告書の作成を行った。調査面積は 250 m²である。

2. 調査の体制

調査委託者：[]

調査主体：久留米市教育委員会 教 育 長：堤 正則

調査総括：市民文化部

部 長：野田秀樹

次 長：佐藤光義(平成 25 年度) 竹村政高(平成 26 年度)

文化財保護課

課 長：園井正隆

課長補佐兼課主査：宮崎俊一 白木 守

事務主査：塚本映子

庶務担当：豊福早苗

調査担当：江頭俊介

整理担当：古賀和子、丸山裕見子

発掘調査臨時職員

石井弘子、井上知義、江藤光男、大熊澄子、大塚ヒロ子、小西富美子、佐田農夫男、執行弘子、高尾春代、田中樹子、田中真弓、田村広美、永富敏明、檜原初美、中村麻衣、原 敏男、日吉政勝、藤木幸子、丸山 幸、迎 直樹、桃崎恭司、由布幸子、渡辺しげ子、渡辺やつ子

発掘調査整理臨時職員

有村幸子

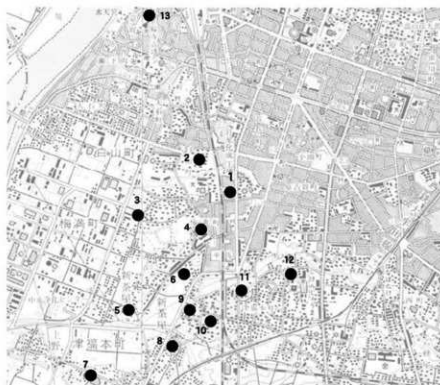
3. 調査の目的と経過

調査地は縄文時代から平安時代の遺跡とされている。当該期の遺構の状況を確認することを目的として調査を行った。平成 26 年 2 月 13 日、重機による表土剥ぎを行った。地表から 40 cm ほどは現代の整地層であり、その下には、黄褐色の地山が検出された。各遺構の調査・記録を行い、同年 3 月 6 日に調査区全体の写真撮影を行った。同年 3 月 13 日に発掘調査を完了した。その後平成 26 年 12 月 26 日までは、遺物整理と報告書作成を行った。遺構実測はトータル・ステーションで行い、「遺構くん cubic」で編集した。記録写真は、カラーリバーサル・モノクロ 6×7 判で撮影した。

II. 位置と環境

久留米市は、九州の北部、筑後川の中流域にあたり、筑紫平野の中心に位置する。古代においては筑後国府や国分寺が置かれ、筑後地区の政治・経済・文化・宗教の中心を占めた。近世には、毛利氏、田中氏の代を経て、有馬氏二十一万石の城下町として栄えた。近代は軍都として、また繊維産業とゴム産業の街として栄え、現在まで県南の中核都市として発展している。

本調査区は、筑後川によって形成された標高 10m ほどの微高地に立地し、北側は芋坂川が流れている。昭和 28 年の水害の際は浸水しなかった地域であり、縄文時代の海進時も陸地であったと考えられる。そのためこの地の人々の活動の痕跡は古く、第 3 次調査では、縄文時代早期の押型文土器や当時の土坑や落とし穴が検出されている。また、周辺の津福寺山遺跡では縄文時代早期の土器が、山ノ内遺跡や庄屋野遺跡では、同時期と見られる落とし穴が検出されている。古墳時代においては、4 世紀の竪穴住居が田中遺跡、津福西小路遺跡、津福古賀畑遺跡で検出されている。奈良時代には白山遺跡で竪穴住居と掘立柱建物が検出されている。調査区より西側の低地は、江戸時代まで葦が生い茂る低湿地であり、渡り鳥の休息地に適した環境であった。古墳時代の豪族水沼君は、雄略天皇に養鳥人を献上した記録があり、当地で古くから鳥の採取や飼育が盛んに行われていたことが窺える。当地は、奈良時代には三潁郡鳥養郷に属す。第 3 次調査では、奈良時代の集落の存在を示すビット群が検出されている。奈良・平安時代においても鳥の飼育は重要な産業であった。平城京木簡には、筑後国生葉郡の鮎が貢上された記録があり、鶴飼のための鳥の飼育なども鳥養郷が担った役割であった可能性が考えられる。



遺 跡 名

- 1 中原遺跡
- 2 白山遺跡
- 3 大隈村館跡
- 4 鳥飼小学校校庭遺跡
- 5 宮ノ木遺跡(第1次)
- 6 宮ノ木遺跡(第2次)
- 7 庄屋野遺跡
- 8 山ノ内遺跡
- 9 津福西小路遺跡
- 10 田中遺跡
- 11 津福寺山遺跡
- 12 津福古賀畑遺跡
- 13 日輪寺古墳

第 1 図 周辺の遺跡分布図 (1/25,000)



第2図 中原遺跡第4次調査区位置図 (1/2,500)

Ⅲ. 調査の記録

1. 検出遺構

今回の調査では、古代の溝1条、土坑1基、その他ピット多数を検出した。

溝

SD50 (第4・6・7図)

調査区中央で検出した長さ7.8m、幅0.8m、深さ0.3mの溝である。平面形状は直線的で、断面形状は丸みを帯びた逆台形を呈す。軸は、N-90°-Eである。溝底面のレベルは、西側から東側に向かって僅かに傾斜する。遺物は7世紀後半の須恵器蓋のみ時期判定できるが、他は相当にローリングを受けた土師器の細片である。ピット群に先行する。

土坑

SK147 (第4・5・9図)

調査区北側で検出した直径2.2mの円形の土坑である。深さは、0.3mを測る。断面形状は緩やかな盆状をなす。古代の須恵器甕片や、土師器細片を含む。

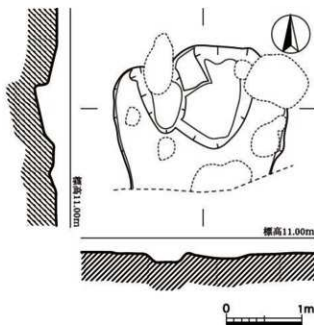
2. 出土遺物

7世紀から古代の土師器、須恵器片、パンコンテナー1箱分の遺物が出土した。詳細は第1表遺物観察表を参照願う。

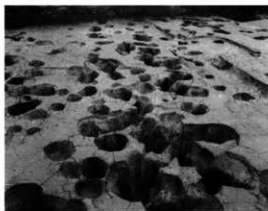
Ⅲ. 調査の記録



第4図 中原遺跡第4次調査遺構配置図 (1/200)



第5図 SK147実測図 (1/50)



第6図 調査区中央ピット群検出状況（東から）



第7図 SD50 完掘状況（東から）



第8図 SD50 完掘状況（西から）



第9図 SK147 土層断面（南から）



第10図 調査区南側近景（南東から）

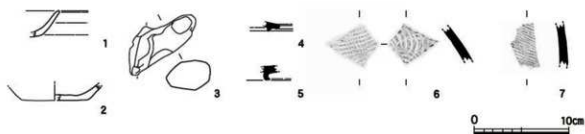
Ⅲ. 調査の記録



第 11 図 調査区南側近景（南西から）



第 12 図 調査区北側近景（北東から）



第13図 出土遺物実測図 (1/4)

第1表 出土遺物観察表

遺物No.	出土遺構	材質	器種	色 量			色 調 (染付・釉薬)		調 整 (文様)			胎 土 (製作地)	備考・時代	登録番号
				口縁 (高)	底縁 (高)	厚さ (厚)	外面	内面	外面	内面	底面・底付 内印痕等			
1	SP34	土師器	杯	-	-	(2.8)	黄	黄	磨耗のため 不明	磨耗のため 不明	-	黄砂粒		201323 000001
2	SP96	土師器	杯	-	[7.0]	(1.7)	に灰・黄緑	に灰・黄	磨耗のため 不明	磨耗のため 不明	磨耗のため 不明	黄砂粒、赤色粒子。		201323 000005
3	SP62	土師器	甕把手	8.4	4.6	3.1	に灰・黄緑	に灰・黄緑	磨耗のため 不明	磨耗のため 不明	-	黄砂粒		201323 000003
4	SK147	須恵器	蓋	-	-	(1.0)	灰	灰	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	黄砂粒	7世紀後半	201323 000006
5	SP129	須恵器	端	-	-	(1.5)	灰	灰	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	黄砂粒	7世紀後半	201323 000006
6	SP77	須恵器	甕	-	-	(3.5)	黄灰	に灰・黄緑	タタキ	青緑紋文	-	黄砂粒		201323 000004
7	SD90	須恵器	甕	-	-	(4.3)	黄灰	灰	タタキ	工具ナデ	-	黄砂粒		201323 000007



第14図 出土遺物写真1



第15図 出土遺物写真2

IV. 総括

今回の調査で検出された古代の溝SD50は、7世紀の須恵器や土師器細片を伴っており、その時期に排水を目的として機能していたと考えられる。軸を正方位にとり東西に延びることから、何らかの区画を意図したか、もしくは周辺に同じ軸をとる建物群が存在する可能性がある。第3次調査では、7世紀後半から8世紀前半の土坑やビットが検出されており、今回も同時期と思われるビット群が検出された。ビット群の遺物はローリングを激しく受けた古代の土師器片がほとんどで、量は少ない。建物の柱穴と考えられるビットも少なく、その性格は不明である。鳥養郷を構成する少なくとも50戸以上の集落が周辺にある可能性があるが、今回はその一端を検出したのみである。白山遺跡第1次調査で奈良時代の堅穴住居と掘立柱建物がそれぞれ1棟検出されている。また、近年北方の京隈台地上にも同時期の遺構の検出例が増えており、京隈地区や白山地区とあわせて鳥養郷の実態を解明する必要がある。

報 告 書 抄 録

ふりがな	なかはらいせき だい4じちょうさ
書名	中原遺跡 第4次調査
シリーズ名	久留米市文化財調査報告書
シリーズ番号	第350集
編著者名	江頭 俊介
編集機関	久留米市役所 市民文化部 文化財保護課
所在地	〒830-8520 福岡県久留米市城南町15-3 TEL0942-30-9225 FAX0942-30-9715 Email:bunkazai@city.kurume.fukuoka.jp
発行年月日	2014（平成26）年12月26日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地		コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
			市町村	遺跡番号					
なかはらいせき 中原遺跡 第4次調査	くるめしうめみつまち 久留米市梅満町596- 12外8筆		40203	—	33° 18′ 34″	130° 30′ 12″	20130213 ～ 20130313	250 m ²	記録保存 調査
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構			主な遺物		特 記 事 項	
中原遺跡 第4次調査	集落	古代	溝 土坑 ピット			1 条 1 基 土師器、須恵器		7世紀後半から8世紀 の溝と多数のピット を検出。	
要 約									
標高10mの低台地の先端部分を調査し、飛鳥時代から奈良時代とみられる遺構を検出した。7世紀後半から8世紀の溝は正方位であり、何らかの区画を意図したか、周辺に正方位の建物群が存在する可能性を示している。									
土木工事の届出日			平成26年1月21日			遺物の発見通知日		平成26年3月20日 (25文財第1431号)	

中原遺跡 — 第4次発掘調査報告 —

久留米市文化財調査報告書 第350集

平成26年12月26日

発行 久留米市教育委員会

編集 久留米市 市民文化部 文化財保護課

印刷 久留米市梅満町410-1

服部印刷株式会社